



TITLE:

13.全体討論(昭和51年度基研長期研究計画「配位相転移の研究」拡大世話人会)

AUTHOR(S):

記載なし

CITATION:

記載なし. 13.全体討論(昭和51年度基研長期研究計画「配位相転移の研究」拡大世話人会). 物性研究 1976, 27(2): B65-B65

ISSUE DATE:

1976-11-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/89225>

RIGHT:

上田：恒温にしておいても，本質的な変化はない。

松田：誤差の問題は深刻と考えるか？

内藤：調べるものによる。

松田：perturbation が働いていると思えばよいのではないか。

全 体 討 論

本田：1 次相転移であるということは，融解とどのくらい本質的なつながりがあるか？

小川：マルテンサイト変態の場合，徐々に移っていくのは，界面の存在と関係していると聞いたが。

二宮：マルテンサイト変態は 1 次転移だが，2 次転移のように議論する人がいる。

大川：結晶の場合は fitting の問題があり，ひずみができる。

二宮：マルテンサイト変態の観測では，ソフトモードがあるようだが。

吉田：樋渡氏の話の中での g 点は spinodal decomp. と関係するか？

二宮：エネルギー論よりは速度論的なもの。

吉田：g 点は definite か？